

## 梁啓超の翻訳活動について ——1900年前後の翻訳活動を中心に

仲 玉花

**要旨：**アヘン戦争で敗れ半植民地化した中国の存亡危機に直面し、戊戌変法派の中心である康有為と梁啓超は、改革によって近代化した明治日本に学び、日本書籍と西洋の書籍を大量に翻訳することを主張した。戊戌変法失敗後、日本に亡命した梁啓超は横浜で『清議報』を創刊し、数多くの文書及び訳文を発表した。1900年代前後の梁啓超の翻訳活動は近代中国における思想啓蒙及び社会改良などに影響を及ぼした。本文では、1900年代前後の梁啓超の翻訳活動を中心に、歴史と思想史を結び付けて翻訳の角度から考察していきたい。

**キーワード：**梁啓超 翻訳活動 影響

### はじめに

アヘン戦争における中国の敗北により、中国の封建社会は崩壊した。この民族存亡の危機に直面し、洋務運動に続いて、1898年、資産階級改良派の中心人物である康有為と梁啓超は戊戌維新運動を主導し、明治維新後の日本に学び、かつ日本語書籍を翻訳する主張した。戊戌維新運動は短命で百日で挫折したが、中国近代の政治革命の序幕が開かれた。戊戌維新運動失敗の後、梁啓超は日本へ亡命し、1898年12月23日、「民の耳目となし、維新の喉舌となす」<sup>1</sup>ことを目的として横浜で『清議報』を創刊した。『清議報』は内容豊富で、政治小説、日本及び泰西人論説などの記載がある。『清議報』において、梁啓超は飲氷室主人・任公・中国之新民などの筆名で数多くの政治論説文章及び訳文を発表し、維新改革と思想啓蒙宣伝に務めた。梁啓超は筆鋒が鋭く、論述が自由奔放であり、「震惊一世，鼓动群论」<sup>2</sup>（時代を揺るがし、文章で世論を動かした）、かれの文章は当時中国の言論界に非常に大きな影響を与えた。「以裨官之体写爱国之思」<sup>3</sup>（卑官の体を以て愛国の思いを写す）を目的として『清議報』で連載した政治小説<sup>4</sup>の中に、梁啓超が日本亡命の途中で翻訳し始めた柴四郎の『佳人之奇遇』がある。自由平等を描写・論述し、民族危機救済と国家振興を政治願望とする日本の政治小説は、梁啓超の平易で分かりやすい「新文体」式の翻訳により、社会改良と思想啓蒙の役割を果たした。『清議報』報館

<sup>1</sup> 徐松榮著『維新派与近代報刊』山西古籍出版社1998年228頁。

<sup>2</sup> 徐松榮著『維新派与近代報刊』山西古籍出版社1998年234頁。

<sup>3</sup> 徐松榮著『維新派与近代報刊』山西古籍出版社1998年228頁。

<sup>4</sup> 「政治小説」という概念は、イギリス作家リットン作、丹羽純一郎訳『花柳春話』によるものである。

が失火した後、梁啓超は1902年2月8日、横浜で『新民叢報』を創刊し、同年冬、『新小説』を創刊した。『新民叢報』の章程の中で、其の旨を「以為欲維新吾国，当先維新吾民」<sup>5</sup>（我が国を維新する為には、まず我が民を維新しなければならない）と明らかにしている。同年、梁啓超は『新民叢報』で『新民説』及び『新民議』などの文章を発表し、また『匈牙利爱国者苏噶士伝』、『意大利建国三傑伝』、『近世第一女傑罗兰夫人伝』などの訳文を発表した。その後、『新小説』で小説と社会の改良との関係を論ずる文章『論小説与群治之關係』及び自身の著書で政治小説『新中国未来記』などを発表した。

梁啓超は政治論説・学術・西洋思想など広い分野において著作を発表した。翻訳では、周知の中国仏教翻訳の分野で大きく貢献した他、1900年前後の日本政治小説及び外国名士史伝に関する翻訳活動とその影響についても一層検討される必要があると思う。国内外の梁啓超の翻訳活動に関するこれまでの研究をまとめると、主に以下のようなものがある。著作類研究は主に狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』/狭間直樹編『梁啓超：西洋近代思想受容と明治日本』、夏暁虹編『覚世与伝世——梁啓超の文学道路』、蒋林著『梁啓超「豪傑訳」研究』、孟昭毅等著『中国東方文学翻訳史』、方華文編『20世紀中国翻訳史』、王向遠『翻訳文学導論』等、論文類研究は主に夏暁虹『梁啓超与日本明治小説』、夏暁虹『<世界古今名婦鑑>与晚清外国女傑伝』、邱紅『政治小説：梁啓超对日本近代文学的選択』、王宏志『「専欲發表区区政見」：梁啓超和晚清政治小説的翻訳及創作』等の論文がある。しかし、梁啓超の翻訳活動について、上記の著作と論文では主に文学の視点で研究されており、思想史と翻訳理論を結びつけた検討が数少なく、取り分け1900年前後の梁啓超の翻訳活動に関する研究を補う余地があると思う。また、梁啓超思想に関する研究は、彼の政治的立場の問題で昔から様々な論争が絶えず、肯定もあり批判もある。しかし、「歴史の人物を評価する際に、その人の政治思想のみを批判してはならず、その人の歴史的貢献、果たした客観的な役割と影響に基づいて全体的に評価しなければならない。」<sup>6</sup>そのため、本論文は思想史と結びつけて、翻訳の角度から梁啓超の翻訳人生における初期の活動を検討し、より客観的に梁啓超研究を補いたい。梁啓超はその一生の中で、思想が何度も変わったが、梁啓超の思想に関する研究は殆ど1903年を境<sup>7</sup>としているので、本文において検討する梁啓超の初期翻訳活動も1903年以前のものを対象とする。

## 1. 梁啓超の翻訳活動

1894年、中日戦争が勃発し、翌年、敗れた清政府は日本と『下関条約』を結んだ。民族危亡

<sup>5</sup> 丁文江・趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社1983年272頁。

<sup>6</sup> 李沢厚『中国近代思想史論』天津社会科学院出版社2004年383頁。

<sup>7</sup> 当該観点は、黄克武『一個被放棄的選択：梁啓超調試思想研究』新星出版社28頁。「思想を言うと、31歳の時（すなわち1903年）は分水嶺である。その前は緩和から急進へ、その後は急進から緩和へ変化した。」及び、林言椒、李喜所『中国近代人物研究信息』天津教育出版社212頁。「国内学界にける梁啓超研究の成果をまとめると、段階的な評価と全体的な評価という二種類に分けられる（中略）戊戌変法前及び変法期の梁啓超思想；戊戌変法後から1903年までの梁啓超思想；1903年から1906年までの梁啓超思想（中略）」による。

の危機に直面し、梁啓超と康有為は維新変法を鼓吹した。梁啓超は、日本が強国になったのは「既受俄、徳、美劫盟之辱，乃忍耻变法，尽取西人之所学而学之，遂有今日」<sup>8</sup>。(ロシア、ドイツ、アメリカ連盟の略奪侮辱を受けながらも、恥を忍んで法律を変え、西洋人に学び、今日に至った)のであり、日本の明治維新を学ぶべきであると主張した。1898年、康有為と梁啓超を始めとする資産階級改良派は光緒帝に上書し、西洋の科学文化を学び、政治と教育制度を改革し、取り分け明治日本の成功した維新経験を学ぶことを主張した。維新運動が百日続いて挫折し、維新変法が失敗した後、梁啓超はそれまで通り康有為に付き従い「勤王自救」を展開し、同年九月に西太后が光緒帝を拘禁するクーデターが起こるや、日本へ亡命した。「戊戌八月、先生脱險赴日本，在彼国军舰中，一身以外无文物，舰长以『佳人之奇遇』<sup>9</sup>一书俾先生谴闷。先生随阅随译，其后登诸『清議報』，翻译之始，即在舰中也。」<sup>10</sup>(戊戌八月、先生は危地を脱して日本に向かった。日本の軍艦の中では、身一つだけで何も携えていなかったのので、艦長は気晴らしに『佳人之奇遇』という書物を先生に与えた。先生は読んだ端から翻訳していき、その後、これを『新議報』に掲載した。先生の翻訳は、じつにこの軍艦の中で始まったのである)(丁文江・趙豊田編/島田虔次編訳『梁啓超年譜長編 第一巻』P269)の記載によると、梁啓超が日本政治小説の翻訳に携わったのは日本亡命の途中であった。政治小説『佳人之奇遇』の翻訳以外に、当時の梁啓超の翻訳活動は、その他外国文学作品の漢文体の直訳や改竄、または改訳などもあった。例えば『匈加利爱国者噶苏士伝』<sup>11</sup>、『近世第一女傑罗兰夫人伝』<sup>12</sup>、『中国文明与其地理之關係』<sup>13</sup>、『地理与文明之關係』<sup>14</sup>などで、訳文も全て『清議報』、『新民叢報』<sup>15</sup>に掲載された。

しかし、翻訳は異文化間のコミュニケーション活動として、単なる言語間の転換にあらず、翻訳者個人の主観的な活動でもない。翻訳活動は社会、歴史及び文化など諸要素の影響を受け、

<sup>8</sup> 湯志鈞編『中国近代思想家文庫 梁啓超巻』中国人民大学出版社 2014年3頁。

<sup>9</sup> 『佳人之奇遇』は作者東海散士が自身が欧米に遊歴した経歴をもとに創作した小説である。登場人物はスペイン女性幽蘭、アイルランド女性紅蓮、清国遺卿、及び作者の化身東海散士の四人である。これらの人物が米国のフィラデルフィアで出会い、各自の祖国が滅亡した悲惨な境遇、及び国家を再建する政治的抱負などを常に一緒に話合うことが描写されている。小説に近代民権思想と民族主義などが表された。

<sup>10</sup> 丁文江・趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社 1983年159頁。

<sup>11</sup> 狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』8頁によると、この訳文は石川安次郎『路易・噶蘇士』の翻訳である。

<sup>12</sup> 狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』8頁によると、この訳文は徳富蘆花『世界古今名婦鑑』第一章「仏国革命の花」の翻訳である。

<sup>13</sup> 狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』103頁によると、この訳文は日本人停春楼主人(塚越芳太郎)『支那歴史における地理的影響』の翻訳である。

<sup>14</sup> 狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』103頁によると、この訳文は浮田和民『歴史と地理』の翻訳である。

<sup>15</sup> 狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』103頁によると、梁啓超はよく日本人の文章を盗用したが、出处を隠したので、実証しにくい。

制約される。そのため、翻訳者はこの異文化間のコミュニケーション活動を実践する際に、必ず「なぜ翻訳するのか」、「何を翻訳するのか」及び「どのように翻訳するのか」といった問題を考えなければならない。また、翻訳者の成果、すなわち訳文もある特定の社会において一定の文化影響を及ぼすのである。梁啓超の初期翻訳活動について、本論文において、『佳人之奇遇』を中心に翻訳目的、翻訳対象及び翻訳方法という三つの面から簡単に検討したい。

(1) 翻訳目的。先ほど触れたように、異文化間のコミュニケーション活動として、翻訳の目的は文化、政治等に影響されるため、翻訳者は翻訳する際に、「なぜ翻訳するのか」という翻訳目的を考える。維新变法を提唱した際に、梁啓超はすでに国民の啓蒙の重要性を意識していた。「康有為と梁啓超は变法維新を提唱した、すでに知識人の中国社会政治における働きが一種の揺るがしがたい潜在力になっていると認識していた。それと同時に、当時の国民の考えが閉鎖的で、これが变法運動に対する最も大きな障害だと痛感していた。それゆえ、官僚知識層の共感を得るために学会を組織し、同志関係を結んで、言論界における支持を得ようとした。变法維新の思想を広めるために、新聞を創刊し、新学を提唱して国民を啓蒙し、状況を打開しようとした。」<sup>16</sup>この中で述べられたように、梁啓超は新聞を創刊し、かつ新聞を通して新思想を宣伝し、国民の知恵を啓蒙して社会を改良しようとした。

梁啓超が日本の政治小説を翻訳し、かつ『清議報』に掲載したことから考察すると、アヘン戦争後、中国が民族存亡の危機に直面しているという社会背景の中、日本に亡命した梁啓超は『佳人之奇遇』に出会い、その中に描かれている、やむを得ず海外へ亡命した政治家や、主人公が民族の自由と独立のために革命活動したことに共鳴し、このような政治小説を媒介に国民思想を啓蒙し、国民の愛国運動を励まそうと希望してこの小説を翻訳し始めたと推測できる。梁啓超が日本の政治小説の翻訳を主張し、また「小説界革命」を提唱した理由は、以下の面からも窺える。

梁啓超は曾て『変法通義』において、中国の旧小説を「海淫海盜」（盜を誨え、淫を誨える）物だと指摘して封建主義旧学を批判した。従って、『訳印政治小説序』（元々は『佳人奇遇序』）において、梁啓超は旧小説を「述英雄則規画『水浒』，道男女則步武『红楼』。<sup>17</sup>」（英雄を語るには『水浒传』にならい、男女の恋愛を描くには、『紅樓夢』を踏襲する）と指摘した。また「佳人才子の思想」、「状元宰相の思想」、「江湖盜賊の思想」など旧小説による思想が国民に影響を与えたため、中国社会の腐敗など様々な社会問題を引き起こしたと指摘した。梁啓超の認識では、政治小説が日本などの国で国民を改造し、政治を改良する面において大きな作用を發揮した：「在昔欧洲各国变更之始，其魁儒硕学，仁人志士，往往以其身所经历，及胸中所怀，政治之议论，一寄于小説。……往往每一书出，而全国之议论為之一变。彼英、美、德、法、奥、意、日本各国政界之日进，则政治小説為功最高焉。」<sup>18</sup>（昔欧洲各国の变革が始まるや、立派な学者、

<sup>16</sup> 中華文化復興与運動委員会主編『中国近代現代史論集』台湾商務印書館発行 440 頁。

<sup>17</sup> 梁啓超『飲水室合集』文集第一冊（三）中華書局 1989 年 34 頁。

<sup>18</sup> 梁啓超『飲水室合集』文集第一冊（三）中華書局 1989 年 34 頁。

優れた人物が、往々にして自身の経歴や胸中に蓄えた政治の議論的意見を、もっぱら小説にあらわした。……往々にして一書出づるたびに、全国の議論はそのために一変した。かの米・英・独・物・奥・伊・日本の政界が日に日々進歩しているのは、政治小説の功績がもっとも大きい。

(狭間直樹編『梁啓超：西洋近代思想受容と明治日本』303頁) それゆえに、梁啓超が「仅识字之人有不读经，无有不读小説者。故六经不能教，当以小説教之，正史不能入，当以小説入之，语录不能谕，当以小説谕之，律例不能治当以小説治之。」<sup>19</sup>(どうにか字が読める程度の人でも、教典は読まない者はいるが、小説を読まない者はいない。ゆえに、六経で教えることができなければ、小説で教えるがよい。正史で導くことができなければ、小説で導くがよい。語録で論ずることができなければ、小説で論ずるがよい。律例で治めることができなければ、小説で治めるがよい。) (狭間直樹編『梁啓超：西洋近代思想受容と明治日本』302頁) と主張して、小説の薫陶・浸透による社会改良等の役割を肯定した。梁啓超の中国旧小説への批判と政治小説による社会改良への評価、及び英・日など各国政界の改良の「最高功績」が政治小説にあるという認識からみれば、梁啓超が政治小説翻訳を積極的に主張した目的は、小説の宣伝力と教化力を借りて政治改良の夢を実現することである。また、同じく漢字を使う日本語を翻訳する際の「快速性」を考えて、梁啓超は日本の政治小説の翻訳を提唱し、かつ自ら翻訳した。

日本の政治小説の翻訳以外に、日本に亡命した梁啓超は自由・進取等の思想を主張する『意大利建国三傑伝』、『匈加利愛国者噶苏士伝』、『近世第一女傑罗兰夫人伝』などの作品を翻訳した。その翻訳目的からみると、戊戌変法の失敗と頑固勢力の維新運動への鎮圧によって、光緒帝を頼りに変法する夢が破れ、亡命した梁啓超の言論が益々過激化し、「排滿」・「革命」を主張した。しかし、梁啓超が曾て『三十自述』で述べたように「稍能读东文，思想為之一变」<sup>20</sup>(少し日本語が読めるようになったことで、思想が一変した)(丁文江・趙豊田編/島田虔次編訳『梁啓超年譜長編 第一巻』P293))、『論学日本文之益』で「哀時客<sup>21</sup>既旅日本数月，肆日本之文，读日本之书，畴昔所未见之籍，纷触于目，畴昔所未穷之理，腾跃于脑……日本自维新三十年来，广求智识于寰宇，其所译所著有用之书，不下数千种，而尤详于政治学资生学(即理财学，日本谓之经济学)，智学(日本谓之哲学)，群学(日本谓之社会学)等皆开民智强国基之急務也。吾中国之治西学者固微矣。」<sup>22</sup>(哀時客は日本に来て数ヶ月になるが、日本の言葉を学び、日本の書籍を読んだおかげで、それまで見たこともなかった書籍が、めったやたらと目に入り、それまで追求したことのなかった理論が、頭の中を駆けめぐった……日本は維新よりこのかた三十年、知識を広く世界に求め、有用な訳書や著書はかず千種を下らず、とりわけ政治学、資生学(すなわち理财学、日本では経済学という)、智学(日本では哲学という)、群学(日本では社会学という)などに詳しい。いずれも国民の知識を開き、国家の基盤を強化するための急務である。我が中国で西洋の学問を修める者はもともとわずかである。)(丁文江・趙豊田編/島田虔

<sup>19</sup> 梁啓超『飲氷室合集』文集第一冊(三)中華書局1989年34頁。

<sup>20</sup> 丁文江・趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社1983年171頁。

<sup>21</sup> 梁啓超のペンネームであり、『清議報』でよくこのペンネームを使った。

<sup>22</sup> 丁文江・趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社1983年176頁。

次編訳『梁啓超年譜長編 第一卷』P294)と述べ、また、1899年、梁啓超が『夏威夷遊記』において「自居東以來、廣搜日本書而讀之、若行山陰道上、應接不暇。腦質為之改易、思想言論與前者若出兩人。每日閱日本報紙……」<sup>23</sup> (さらに日本に住んで以來、広く日本書を求めて読んだが、あたかも「山陰道上を行きて、応接に暇あらず」[『世説新語』言語]という調子で、これによって頭の中身は一変し、思想や言論は以前に比べると別人の手になるかと思えるほどだった。毎日、日本の新聞を読んで……) (丁文江・趙豊田編/島田虔次編訳『梁啓超年譜長編 第一卷』P311)述べたように、一貫して民智開発と思想啓蒙を重要視してきた梁啓超はこの時期、西洋知識に幅広く接触し、西洋の近代民族主義についてより深い認識ができるようになり、各民族の平等を主張してきた。従って、中国が不振なのは、国民の公德が欠如し、知恵が未開であったからだと認識した。1902年、梁啓超が『新民叢報』を創刊し、かつその宗旨の中で「欲維新吾国、当先維新吾民。中国所以不振、由于国民公德缺乏、智慧不开、故本报专对此病而药治之、务采合中西道德以為德育之方针、广罗政学理論、以為智育之原本。<sup>24</sup>」(我が国を維新するために、まず我が民を維新する。中国が不振であるのは、国民に公德が欠如し、知恵が開かれていないからである。それゆえ、本報はもっぱらこの病に治療を施すべく、中国と西洋の道德を併せ取って德育の方針とし、政治や学問の理論を広く網羅し、知育の根本とするよう努める。) (丁文江・趙豊田編/島田虔次編訳『梁啓超年譜長編 第二卷』P128)と主張して『新民説』を発表した。その中で、国民の徳・智教育の重要性を強調し、かつ自由と進取の思想を宣伝し始めた。『新民説』の中に、『論新民為中国今日第一急務』・『論公德』・『論国家思想』・『論進取冒險』・『論自由』等の文章が含まれている。以上から見ると、この時期の梁啓超が主張した思想は、彼の文章にも窺え、訳文にも窺える。

(2) 翻訳対象。翻訳活動の目的が一旦確定されると、その次に翻訳者は「何を翻訳するのか」、すなわち翻訳対象を確定する必要がある。言い換えれば、翻訳材料を選択しなければならない。

日本において、最も早く現れた政治小説は戸田欽堂『情海波瀾』であり、その後、数多くの政治小説が出されて、人々に愛読された。当時、影響力が最も大きく、かつ日本の政治小説の代表となったのは梁啓超に推薦された柴四郎(東海散士)の『佳人之奇遇』と矢野竜溪(文雄)の『経国美談』である。梁啓超が『伝播文明三利器』において「于日本維新之运有大功者、小説亦其一端也。明治十五六年間、民权自由之声、遍满国中。于是西洋小説中、言法国、罗马革命之事者、陆续译出、……翻訳既盛、而政治小説之著述亦渐起、如柴东海之『佳人奇遇』、末广铁肠之『花间莺』、『雪中梅』、藤田鸣鹤之『文明东渐史』、矢野竜溪之『経国美談』等。著书之人、皆一时之大政治家。寄托书中之人物、以写自己之政见。故不得专以小説目之。而其浸润于国民脑质、最有效力者、则『経国美談』、『佳人奇遇』两书為最云。」<sup>25</sup> (日本維新の運動に大きな功績があったものでは、小説もまたその一端である。明治十五六年頃、民権自由の声が国中

<sup>23</sup> 丁文江・趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社 1983年 188頁。

<sup>24</sup> 丁文江・趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社 1983年 272頁。

<sup>25</sup> 梁啓超『飲水室合集』専集第一冊(二)中華書局 1989年 41頁。

に溢れた。それゆえ、西洋小説の中で、フランス、ローマ革命に関するものが続々と翻訳された。(中略) 翻訳が盛んになり、政治小説の創作も始まった。例えば柴東海『佳人之奇遇』、末広鉄腸『雪中梅』、『花間鶯』、藤田鳴鶴『文明東漸史』、矢野竜溪『経国美談』等である。作者はいずれも当時の政治家であり、作中の人物に自己の政治上の意見を託して述べさせることが目的であるため、もっぱら小説と見なしてはいけぬ。しかし、国民の頭に浸透し、もつとも功績があったのは『経国美談』と『佳人之奇遇』である。) と述べた。ここから、政治小説が日本で広く認められた事実そのものが、当時、梁啓超の翻訳対象の選択に影響を与えたことが窺えるのではないかと推測できる。<sup>26</sup>

日本亡命後の梁啓超は曾て、日本に行った後「思想一変」を強調したが、その「一変」は言うまでもなく身を明治日本に置きその文化状況を体験し摂取したことによる「一変」である。<sup>27</sup> その後、梁啓超は明治日本から積極的に摂取した文明文化、及び日本経由の西洋文明文化を近代中国の人々に紹介した。勿論、その中には政治小説などの翻訳が含まれている。実は、梁啓超が日本政治小説を翻訳した時代は、政治小説の影響力が最も大きい時代ではなかった。しかし、馮自由『革命逸史』に記載されたように、梁啓超は曾て 19 世紀 90 年代、日本言論界で影響力が最も大きく、人々に愛読された『国民之友』と『家庭雑誌』を創刊した徳富蘇峰と書簡交流をしたことがあり、徳富蘇峰が創社した民友社から出された書籍を「論断常に特識あり」と評し、徳富蘇峰の新文体も高く評価した。それゆえ、徳富蘇峰が『国民之友』で政治小説を「彼の小説は、社會の鏡なり、小説の出来事は即ち鏡中の花なり、水面の月なり。小説の不都合なるは、社會の不調子不都合なるが故なり。」<sup>28</sup> と評したことから考えて、梁啓超が日本の政治小説を翻訳対象としたのはある程度徳富蘇峰による影響も否定できないだろう。

以上の史料から見ると、梁啓超が当時日本政治小説に関して、最も影響力のある小説及びその内容に非常に詳しいだけでなく、政治家作者のように自分の政治思想を小説に託して、「社會の不調子不都合」を表し、かつ小説の「最も効果的」に「国民の頭の中に浸透する」働きで民智開発と社会改良の意図を実現するためであった。従って、目的を明確にした上で、梁啓超は『佳人之奇遇』を当時中国の歴史と文化背景に適する翻訳対象として翻訳し、『清議報』の「政治小説」コラムを経由して近代中国の人々に紹介した。

また、『新民説』の各章の内容を考察してみると、『論新民為中国今日第一急務』、『积新民之義』、『論国家思想』、『論公德』であれ、または『論進取冒險』、『論自由』、『論進歩』であれ、これらの文章が主張した思想は、いずれも当時梁啓超が西洋思想に接触した後認識するように

<sup>26</sup> 夏曉虹 著 『覚世与伝世—梁啓超の文学道路』中華書局 2006 年 199 頁。

<sup>27</sup> 狭間直樹編 『梁啓超・明治日本・西方』社会科学文献出版社 2012 年 63 頁。

<sup>28</sup> 徳富蘇峰『徳富蘇峰集』改造社 昭和五年八月十二日 346 頁。

なった近世民衆主義や国家主義と関わりがあり、また、日本亡命後の梁啓超の「一変」した思想でもあるかと思う。従って、当時の客観的環境と主観的思想の変化に影響されて、梁啓超は著作以外にも、同じく自由・進取・公德等の思想が主張されている西洋書籍や西洋からの日本書籍を意識的に翻訳したと言えるだろう。例えば、徳富蘆花『名婦鑑』の一部を翻訳して、『近世第一女傑罗兰夫人』と命名した。作品そのものから見れば、徳富蘆花は兄の徳富蘇峰に影響され、『国民之友』に多くの作品を書いた。そのため、彼の作品において国民の立場から日本社会の近代化を求める部分は、梁啓超が当時提唱した「民智開通」と一致した。<sup>29</sup>したがって、徳富蘆花の『名婦鑑』の翻訳は、これらの客観的要素と主観的要素とも関わりがあると推測できると思う。

(3) 翻訳方法。翻訳目的と翻訳対象を確立したあと、翻訳活動の成果が目的語の読者に認められるかどうか、翻訳者が次の段階で考える仕事になる。すなわち、読者に認められるために、「どのように翻訳するのか」すなわち翻訳方法を考えなければならない。戊戌維新運動において西洋書籍の翻訳を通して新思想と新文化を伝播することを提唱した梁啓超は、平易で分かりやすい話し言葉で外国書籍を翻訳すべきだと主張した。従って、嚴復の「雅潔」の翻訳に対して、梁啓超は「文笔太务渊雅，刻意模仿先秦问题。非多读古书之人，一翻殆难索解。」<sup>30</sup>（文章は深遠であるが、徹底して前秦の文章を模倣したため、古書を大量に読んだ人でなければ、ほとんど理解しがたい。）と批判した。梁啓超は『佳人之奇遇』を翻訳した際、勿論彼の日本語のレベルが低かったこともあるが、80パーセント漢字で書かれた原文の、仮名だけを切り捨て、語順を並べ替えた「豪傑訳」<sup>31</sup>と言われる直訳の翻訳方法で嚴復の翻訳より分かりやすい言葉で翻訳した。例えば、原文の始めにこのような描写がある：「東海散士一日費府ノ獨立閣二登リ仰テ自由の破鐘ヲ觀俯テ獨立ノ遺文ヲ讀ミ當時米人ノ義旗ヲ舉テ英王ノ逆政ヲ除キ卒二能ク獨立自由ノ民タルノ高風ヲ追懷シ俯仰感慨二堪ヘス愾然トシテ窓二倚テ眺臨ス」<sup>32</sup>、これに対して、梁啓超は原文にある漢字を並べ替えて分かりやすい白話文に翻訳した：「東海散士一日登費府獨立閣，仰觀自由之破鐘，俯讀獨立之遺文，慨然懷想，當時美人舉義旗，除英苛法，卒能獨立為自主之民，倚窓臨眺，追懷高風，俯仰感慨。」<sup>33</sup>また、原文の「國民之に應ズルモノ甚だ多シ。時に學士書生別二自主自由ノ利ヲ・キテ共和ノ民政ヲ呼唱スル者アリ。オヲ抱テ鬱屈スル者貧困二苦テ、亂ヲ思フ者皆相和シテ人心ヲ煽動ス。其勢恰も滿岸ノ漲水堤ヲ潰して一時二決スルガ如ク、之ヲ壅塞セントスレバ衆論喧嘩邦内擾擾タリ。」<sup>34</sup>と比べてみると、梁啓超の訳文である「於國民應之者甚多。時學士書生、有別說自由自主之利、倡道民政共和者。其抱才鬱屈、極

<sup>29</sup> 夏曉虹『世界古今名婦鑑与晚清外国女傑伝』北京大学学報（哲学社会科学報）2009年3月

<sup>30</sup> 方華文編『20世紀中国翻訳史』西北大学出版社2014年12頁。

<sup>31</sup> 本論文において王向遠『翻訳文学導論』140頁「豪傑訳」の定義を使用する。「豪傑訳」はすなわち削除、改竄、補足など原作を無視した翻訳方法を指す。

<sup>32</sup> 柳田泉編『明治政治小説集（二）』筑摩書房 昭和四十二年八月十五日 4頁。

<sup>33</sup> 梁啓超『清議報』全編卷十三

<sup>34</sup> 柳田泉編『明治政治小説集（二）』筑摩書房 昭和四十二年八月十五日 8頁。



苦于貧困而思亂者、皆相和而煽動人心。勢如滿岸之漲、一時潰堤、不可收拾。欲壅塞之而反動激烈也。」<sup>35</sup>も殆ど直訳で、日本語の仮名を捨てて、中国語の語順に応じて原文の漢字を組み合わせることによって白話文に訳したのである。この時期の梁啓超は明治新文体の影響を受けて、「務為平易暢達、時杂以俚语韵语及外国语法、纵笔所至不检束、学者竞效之、号新文体」<sup>36</sup>（つとめて平易潤達なる文章を書き、時には俗語や韻語、さらには外国語をもまじえ、自由に筆をふるって、およそ束縛されることがなかった。学生たちは争ってそれをまね、新文体と称した。）（丁文江・趙豊田編/島田虔次編訳『梁啓超年譜長編 第二卷』P131）「読者に一種の魔力」この翻訳方法は人々に評価された。

それ以外に、「豪傑訳」の翻訳方法を取った梁啓超は、自分の翻訳目的に応じて原作の章節も調整した。例えば、原作には『佳人之奇遇引』及び『自序文』部分があるが、梁啓超が『清議報』に掲載された訳文には、この部分を「序」に直して、かつ『序』の中で、「政治小説という文体は西洋から始まった」と明確に政治小説の来源を説明した。さらに、政治小説の役割を「日本など各国政界が日々進歩したのは、政治小説の功績が最も大きい」と積極的に肯定した。従って、日本の政治小説で最も興味があるのは作者の政治的メッセージであったため、梁啓超は自身の政治観点を訳文に追加する「豪傑訳」の翻訳方法で、民智開発の意図を政治小説に託したのである。

それでは、徳富蘆花の『名婦鑑』と梁啓超の「豪傑訳」方法による訳文『近世第一女傑罗兰夫人伝<sup>37</sup>』を見てみよう。松尾洋二による原文と訳文の比較から分かるように「本起筆の五行及び結論部分は「新史氏曰」を除く本文全体は若干の変更があるのみで、徳富蘆花編『世界古今名婦鑑』第一章「仏国革命の花」の全訳である」<sup>38</sup>。その上、梁啓超は原文に対して削除と変更を手直しを加えた。例えば、ローラン婦人の家庭事情、容貌等の部分を削って、ローラン婦人の初期の急進的な思想、行動を控え目に処理含みを持たせて改作した。<sup>39</sup>、また、原文にない段落も訳文の始まりのところに追加した：「嗚呼！自由自由。天下古今凡多之罪惡，假汝之名以行。此法国第一女傑罗兰夫人临终之言也。罗兰夫人何人也？彼生于自由。死于自由。罗兰夫人何人也？自由由彼而生，彼由自由而死……」<sup>40</sup>梁啓超の削除にしても、追加にしても、または改竄にしても、松尾洋二の観点から見れば、『罗兰夫人伝』が近代中国の最も有名な「改良と革命」の大論戦において中心的な地位を占めたのである。また、この伝記の翻訳が目的語読者に認められ、目的語の社会環境に適し、さらに最も重要なのは、この作品の翻訳が近代中国当時の事情に適合すべきであることを考えた上で、梁啓超はこのような豪傑訳の翻訳方法を取ったのである。

<sup>35</sup> 梁啓超『清議報』全編卷十三

<sup>36</sup> 丁文江・趙豊田編『梁啓超年譜長編』上海人民出版社 1983年 74頁。

<sup>37</sup> ローラン婦人（1754年3月～1793年11月）、フランス革命の有名な政治家、ジロンド派の指導者の1人である。のちにギロチンに処刑された。

<sup>38</sup> 狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』社会科学文献出版社 2012年 241頁。

<sup>39</sup> 狭間直樹編『梁啓超・明治日本・西方』社会科学文献出版社 2012年 241頁。

<sup>40</sup> 梁啓超『飲氷室合集』専集第一冊（十二）中華書局 1989年 1頁。

## 2. 梁啓超翻訳活動の影響

李沢厚が『中国近代思想史論』において：「梁啓超之所以出名，并且在当时的中国知识分子当中具有极大影响力，主要是因為 1903 年前梁啓超创办了『清議報』和『新民叢報』，并撰写了很多介绍和鼓吹资产阶级政治社会以及政治文化思想的文章。1898 年至 1903 年是梁啓超作為资产阶级启蒙宣传家的黄金时期，是他一生中最有群治影响，起了最好客观作用的时期。他这一时期的論著，对连续几代的青年都起了重要作用。」<sup>41</sup>（梁啓超が有名になり、かつ当時の中国知識人の中でかなり影響力を持ったのは、1903 年以前に、梁啓超が『清議報』と『新民叢報』を創刊し、数多くの資産階級政治社会及び政治文化思想に関する文章を書いたためである。1898 年から 1903 年の期間は梁啓超の資産階級啓蒙家としての黄金期であり、彼の一生の中では、民衆に最も影響を与え、客観的に良い仕事をした時期である。この時期の彼の著作は、数世代にわたり中国の若い知識人に大きな影響を与えた）と指摘した。

(1) 思想への啓蒙。梁啓超が翻訳した作品の中で鼓吹された「独立」、「自由」、「愛国」、「新民」などの思想が当時の若い知識人に広く影響を及ぼした。勿論、梁啓超が訳文を国民に紹介した際の媒介である刊行物、取分け『清議報』と『新民叢報』は、非常に大きなメディア効果を発揮した。『新民叢報』が発行されるや否や国内外に流行した。その売れ行きは昔の時務報や清議報より遥かに良い；梁啓超の文書の当時知識人の間での人気ぶり、及び彼の言論が当時の学界に与えた影響も、時務報と清議報の時代とは比べものにならない。<sup>42</sup>の記述で分かるように、梁啓超の訳文及び彼が創刊した刊行物が当時の若い知識人に与えた影響は下記の歴史史料からも窺える：郭沫若が「『清議報』は分かりやすい。言論はかなり薄っぺらいが、新しい気概が表れている。（中略）彼が翻訳した『経国美談』の中で、軽快な文章で描かれた亡命の志士や建国の英雄には、本当にうっとりさせられる」<sup>43</sup>と言った；胡適が「彼の「新民説」は私に新しい世界を開いてくれた。中国以外にも非常に高等な民族と文化が存在するとすっかり信じさせられた」<sup>44</sup>。と述べた。また、魯迅時代の知識人も梁啓超から影響を受けた。梁啓超翻訳活動の啓蒙延長線として、彼は小説界革命を提唱し、小説で政治革命を推進することを提唱した。1902 年 11 月、梁啓超が『新小説』を創刊し、「群治を改良するためには、小説界革命から始めなければならない；民を新たにするためには、小説を新たにしなければならない」と主張して、中国初の政治小説『新中国未来記』を創作した。京都大学井波陵一教授が述べたように：「当時梁啓超の「啓蒙」が発揮した威力は絶対大だった。自ら、梁啓超はもっぱらその宣伝を任務とし、『新民叢報』や『新小説』などの雑誌を発行し、その主義を広めた。我が国の人々は競ってこれを読んだ。清朝はこれを厳禁し禁じたが、それを押し止めることはできなかった。一冊発行されるごとに、中国内地では十数回も翻刻された。二十年来、学生たちの思想は、すこぶるそ

<sup>41</sup> 李沢厚『中国近代思想史論』天津社会科学院出版社 2004 年 386 頁。

<sup>42</sup> 中華文化復興与運動委員会主編『中国近代現代史論集』台湾商務印書館発行 450 頁。

<sup>43</sup> 李沢厚『中国近代思想史論』天津社会科学院出版社 2004 年 393 頁。

<sup>44</sup> 李沢厚『中国近代思想史論』天津社会科学院出版社 2004 年 393 頁。

の影響を受けたのである。」<sup>45</sup>また、アメリカの学者張灝が述べたように「梁啓超の国民思想は過去半世紀以来各思想流派の大部分の中国知識人を持続的に惹きつけている」。<sup>46</sup>

(2) 近代中国文学への影響。梁啓超の『訳印政治小説序』における「政治小説の功績が最も高い」という指摘は勿論政治小説の社会改造作用を誇張したものだが、政治小説翻訳によって、近代中国で小説翻訳と日本語経由の西洋書籍の翻訳ブームを引き起こした。例えば林紘訳『椿姫』は当時翻訳小説の最も代表的な作品であった。また、梁啓超は『論小説与群治之關係』で「新小説」及び「小説界革命」を提唱した。彼は「一国の国民を革新しようとするれば、その国の小説を革新しなければならない。それ故、道徳を革新しようとするれば、宗教を革新しようとするれば、政治を革新しようとするれば、風俗を革新しようとするれば、学芸を革新しようとするれば、必ず小説を革新しなければならない；さらには、人心を革新しようとするれば、必ず小説を革新しなければならない；なぜなら、小説は人間の生き方を支配する不思議な力があるからである」<sup>47</sup>と主張した。客観的に言えば、梁啓超は小説の役割を大きさに強調したが、「小説界革命」の提唱によって、当時の小説の地位が上がり、封建的な障害を突き破る面において大きな啓蒙作用が発揮された。その後、「小説界革命」も盛んに発展し、小説創作のブームも引き起こされた。その影響を受けて、20世紀の初め頃、劉鶚の『老殘遊記』、李伯元の『官場現形記』と曾樸の『孽海花』などの小説が現れた。さらに梁啓超が提唱した白話文体もその後の新文化運動に一定の影響を及ぼした。五四新文化運動の前ぶれとして、近代中国において「白話文」ブームが引き起こされ、さらに、『杭州白話報』（1901年）、『蘇州白話報』（1901年）などが現れた。

## おわり

梁啓超は中国近代史において最も傑出した啓蒙思想家として、また近代中国において国民性改造に務めた第一人者として、胡適、魯迅など新青年に極めて大きな影響を及ぼした。1903年以前、梁啓超が発表した数多くの著作は当時の中国知識人に影響を与えたのみならず、彼の翻訳活動も民衆の思想啓蒙において役割を果たした。現在、梁啓超の日本政治小説の翻訳に関しては、殆ど文学の立場から研究されている。しかし、1900年前後の梁啓超の翻訳活動について、思想史を結びつけて翻訳理論を取りあげる研究はそれほど多くない。松尾洋二が指摘したように、一人の思想家を研究する際に、その政治思想のジャンルのみで成り立つのではなく、他のジャンルが大きな機能を果たしていることあり、また同一空間（国内）における読解のみではなく、異質空間（国外）における読解が、より重要である<sup>48</sup>。従って、この時期における梁啓超の翻訳活動に関して、歴史を踏まえて翻訳目的、翻訳対象などの面から検討し、梁啓超の思想をより全体的に把握し、より客観的に研究する事に一定の意義があるのではないかと思う。

<sup>45</sup> 狭間直樹編 『梁啓超・明治日本・西方』社会科学文献出版社 2012年 318頁。

<sup>46</sup> 張灝著、崔志海・葛夫平訳 『梁啓超与中国思想的過渡（1890-1907）』江蘇人民出版社 1995年 182頁。

<sup>47</sup> 梁啓超『飲氷室合集』文集第二冊（十）中華書局 1989年 34頁。

<sup>48</sup> 狭間直樹編 『梁啓超・明治日本・西方』社会科学文献出版社 2012年 224頁。

## 参考文献

## 著作

1. 丁文江·趙豊田編/島田虔次編訳『梁啓超年譜長編』岩波書店 2004年1月23日
2. 徳富蘆花著『不如帰・名婦鑑』蘆花全集刊行会 1930
3. 狭間直樹編『梁啓超：近代西洋思想受容と明治日本』みすず書房 1999
4. 柳田泉編、明治政治小説集(二) 筑摩書房 昭和42年8月15日
5. 徳富蘇峰『徳富蘇峰集』改造社 昭和5年8月12日
6. 方華文編『20世紀中国翻譯史』西北大学出版社 2014年
7. 黄克武『一个被放弃的選择：梁啓超调试思想研究』新星出版社 2006年
8. 蒋林著『梁啓超“豪傑訳”研究』上海訳文出版社 2009年
9. 李沢厚『中国近代思想史論』天津社会科学院出版社 2004年
10. 梁啓超『飲氷室合集』中华书局 1989年
11. 林言椒 李喜所 主編『中国近代人物研究信息』天津教育出版社 1988年
12. 孟昭毅等著『中国東方文学翻譯史』(上卷) 崑崙出版社 2004年
13. 馬祖毅『中国翻譯簡史』中国对外翻譯出版公司 2004年
14. 実藤恵秀著、譚汝謙・林啓彦訳『中国人留学日本史』北京大学出版社 2012年
15. 中華文化復興と運動委員会主編『中国近代現代史論集』台湾商務印書館發行
16. 湯志鈞編『中国近代思想家文庫 梁啓超卷』中国人民大学出版社
17. 王曉秋・大庭修主編『中日文化交流史大系(1) 歴史卷』浙江人民出版社 2006年
18. 夏曉虹著『覚世与伝世世——梁啓超の文学道路』中華書局 2006年
19. 王秉欽著『20世紀中国翻譯思想史』南開大学出版社 2004年
20. 王克非『中日近代对西方政治哲学的撰取』中国社会科学出版社 1997年
21. 王向遠『翻譯文学導論』北京師範大学出版社 2004年
22. 許鈞著『从翻譯出發——翻譯与翻譯研究』復旦大学出版社 2014年
23. 徐松榮 著『維新派与近代報刊』山西古籍出版社 1998年
24. 狭間直樹編『梁啓超·明治日本·西方』社会科学文献出版社 2012年
25. 张灝著、崔志海·葛夫平訳『梁啓超与中国思想的過渡(1890-1907)』江蘇人民出版社 1995年

## 刊行物

梁啓超『清議報』全編卷十三

## 論文

1. 邱紅『政治小説：梁啓超对日本近代文学的選择』 2001
2. 夏曉虹『梁啓超与日本明治小説』北京大学学報 一九八七年第五期
3. 夏曉虹『世界古今名婦鑑与晚清外国女傑伝』北京大学学報(哲学社会科学報) 2009年3月
4. 王宏志『「専欲発表区区政見」：梁啓超和晚清政治小説的翻譯及創作』文芸理論研究 1996年06期